

# 口永良部島

## 火山活動評価：やや活発な状況（レベル2）

火山性地震や火山性微動がやや多く、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

現在の火山活動レベルは2です。平成17年2月1日の導入以降、レベル2が継続しています。

### 概況

- ・ 噴煙活動

監視カメラでは、新岳から高さ10mの噴気が時々観測されました。

古岳からの噴気は観測されませんでした。

- ・ 地震・微動活動(図2)

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は201回(11月：479回)でした。火山性微動は、10月からやや多い状態が続いており、月回数は32回(11月：100回)でした。

- ・ 地殻変動(図3、図4)

12月8日からGPS観測を開始しました。

GPS連続観測では、地殻変動に特段の変化はありませんでした。

- ・ 熱活動(図5)

海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て1日に行った上空からの観測では、2006年10月30日と比べ新岳の南西側斜面で、若干の温度上昇が認められ、引き続き熱活動の高まりが見られます。

- ・ 火口、噴気地帯の状況

噴気地帯の状況に変化はありませんでした。

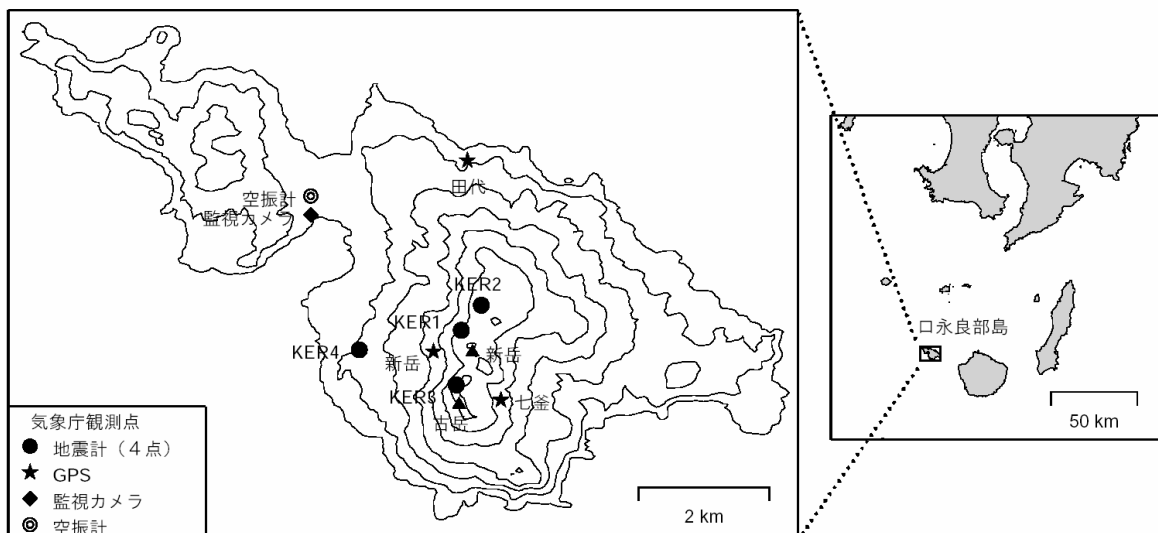


図1 観測点配置図

資料は、気象庁のデータの他、京都大学のデータを利用して作成しました。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号：平17総使、第503号)。

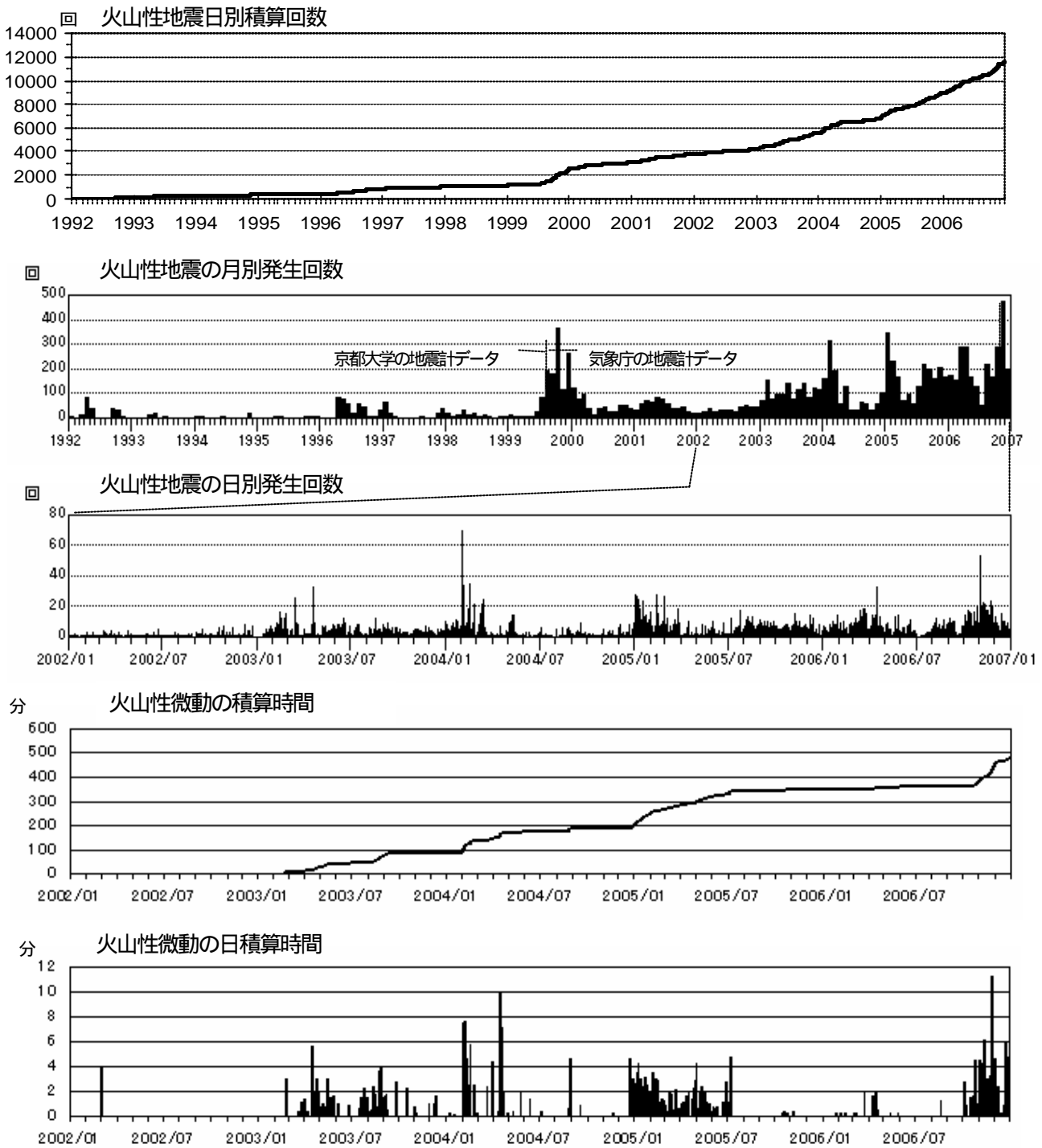


図2 火山性地震・微動活動経過図(2003年1月1日～2006年12月31日)

- ・ 2005年7月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
- ・ 火山性微動は2003年2月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。継続時間が約5～6分間の微動を2回観測しました。
- ・ 1982年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日までは京都大学のデータを使用しました。
- ・ 2002年12月22日～2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日までは地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。

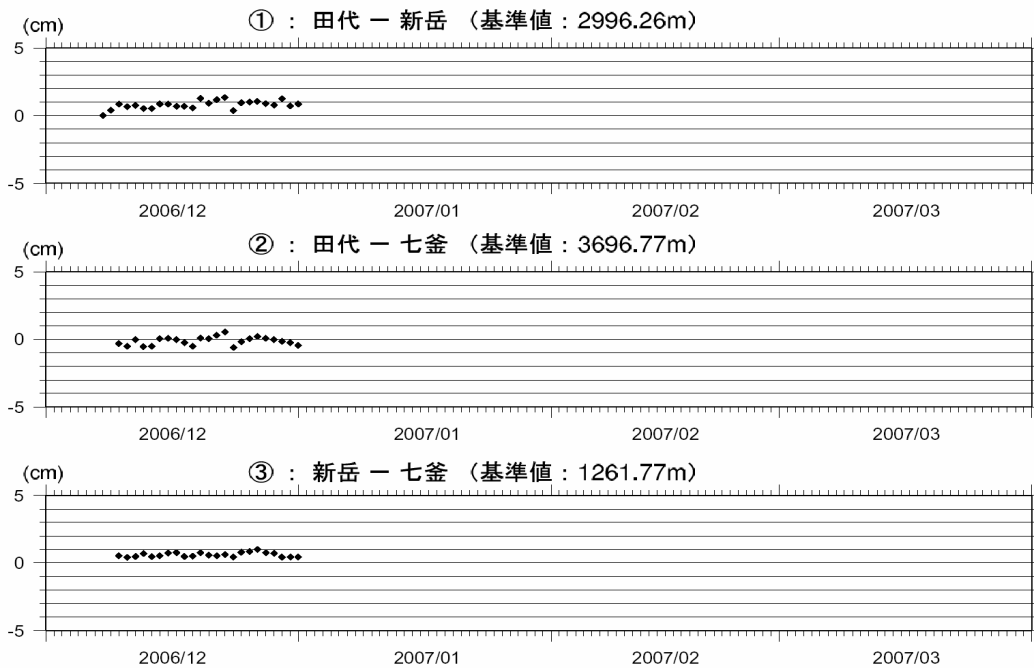


図3 GPS 連続観測による基線長変化図(2006年 12月 8日~2006年 12月 31日)

- ・ 地殻変動に特段の変化はありません。

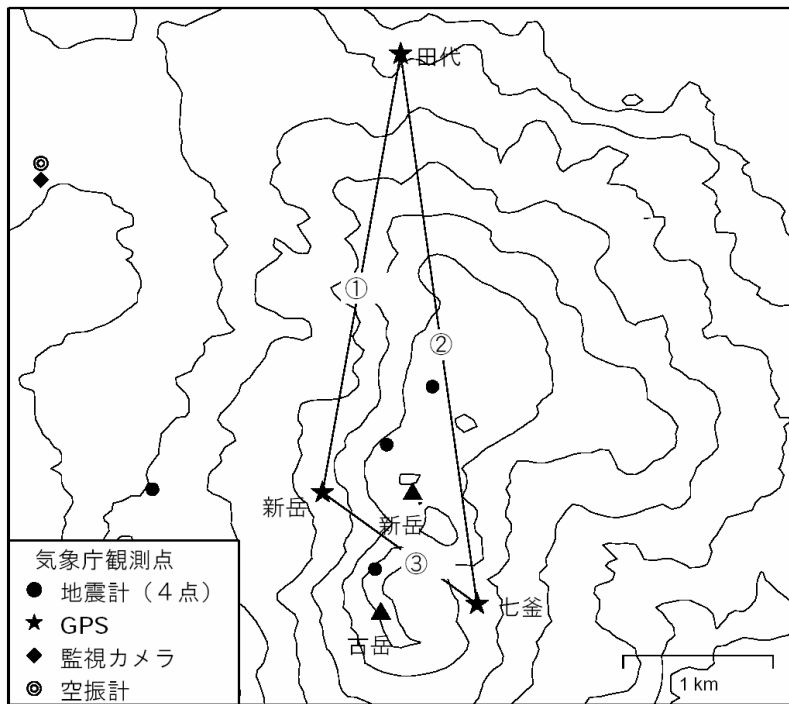
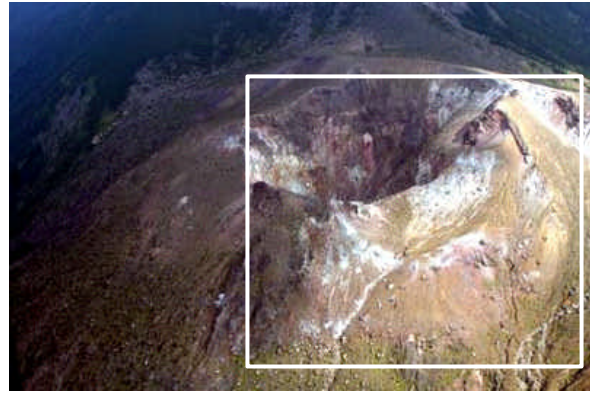


図4 GPS 連続観測点と基線番号



新岳火口 南西側から撮影(可視) 左 2006年12月1日 右 2006年10月30日

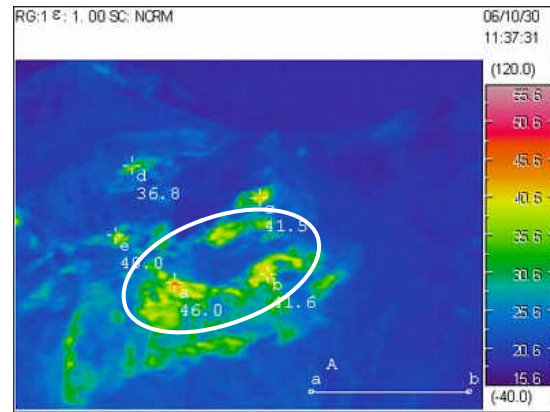
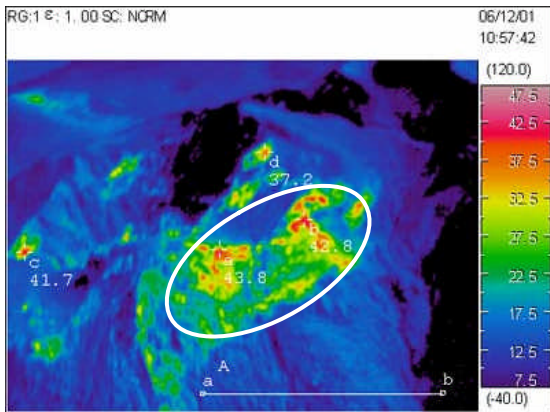


図5 赤外熱映像観測結果(2006年12月1日実施)

新岳火口 南西側から撮影(赤外熱映像装置による<sup>1)</sup>) 左 2006年12月1日 右 2006年10月30日  
 ・ 2006年10月と比べ新岳の南側斜面(図中の白楕円内)で若干の温度上昇が認められます。  
 赤外熱映像は、図中のa b間(図中の白線)で温度平均値を取り、表示レンジを調整しています。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所を測定することが出来る利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。